石川功一の水彩・油彩展
和歌に詠まれた草花たち

見わたせば　向ひの野辺の　なでしこの
散らまく惜しも　雨な降りそね

万葉集　第八巻　一九七〇番歌　作者未詳

石川功一《エゾカワラナデシコ（蝦夷河原撫子）》1986年 水彩スケッチ
Kōichi Ishikawa《Ezokawaranadeshiko》1986 Watercolor painting

小さな美術館　軽井沢草花館

2024　4 / 20 土 –11 / 10 日

開館時間　10:00 ～ 17:00　入 館 料　500 円（中学生以上）、小学生以下無料

休 館 日　火曜日　11/11以降冬期休館

https://kusabana.net　Tel.0267-42-0716

軽井沢駅北口から約５００ｍ　地図 ＱＲコード

場所は右のQRコードをスマホで読み取るか、裏面の地図をご参照下さい

Petit Museum KARUIZAWA KUSABANAKAN. 19-40 Karuizawa-higashi Karuizawa-cho kitasakugun Nagano 389-0104, JAPAN. 〒389-0104 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢東 19-40

石川功一の水彩・油彩展

和歌に詠まれた草花たち

Kōichi Ishikawa water & oil painting exhibition. Plants written in Waka

本展は画家・石川功一が描いた軽井沢自生の草花図（水彩・油彩）と、その草花が詠まれた和歌を紹介する企画展です。紹介する和歌は、日本最古の歌集である「万葉集」を中心に古今和歌集、拾遺和歌集等、5～11世紀の歌を厳選。和歌の中で詠まれた草花は、万葉集だけでも150種以上ありますが、本展では石川が描いた草花と合うものを76種厳選（内、万葉集52種）。館内で展示される作品は約40種ですが、会期中に少しずつ、作品や和歌の入れ替えを行います。

春の野に　すみれ摘みにと　来し我れぞ
野をなつかしみ　一夜寝にける
万葉集 第八巻 一四二四番歌　山部赤人

タチツボスミレ 1986 水彩スケッチ

我がやどの　萩の下葉は　秋風も
いまだ吹かねば　かくそ黄変てる
万葉集 第八巻 一六二八番歌　大伴家持

ヤマハギ 1990 水彩スケッチ

忘れ草　我が紐に付く　香具山の
故りにし里を　忘れむがため
万葉集 第三巻 三三四番歌　大伴旅人

ヤブカンゾウ（わすれぐさ）1990 カンバス油彩 12号

小さな美術館 軽井沢草花館（かるいざわ くさばなかん）

画家・石川功一が描き続けた軽井沢自生の草花図（水彩スケッチと油彩画）を展示する小さな個人美術館。
石川功一の草花油彩画百数十点と水彩スケッチ（約950種、3,000余枚）をはじめ、人物デッサン、人物、風景画を所有し、草花図を中心とした様々な企画展を開催している。

軽井沢に自生する草花を愛した石川功一の経歴と活動

1937年（昭和12年）三重県伊賀市阿保（旧・名賀郡青山町）で開業医の二男として出生。20才の時に大志をいだき東京に出奔、マンガ家となる。その後、画家への道をめざしデッサンに明け暮れる。30才の頃より描きはじめたドローイング「人間戯画」が銀座の画廊に認められ、援助を受けることになる。以降、人物画を中心に画家としての活動を続ける。
1981年(44才)、個展のため軽井沢を訪れたことが縁で草花と出会い、草花画が本来目指すべき道だと悟り、草花のスケッチと油彩画制作に新しい境地を開いた。草花本来の姿を描き取るため、スケッチは自ら軽井沢の野山を駆け巡り、自生している状態を描き続けた。油彩画は背景の色を何層にも重ねる独自の画法で、日本画のような繊細な画風を生み出した。

近年開発の中で自生地が狭められ、消えゆく草花が増える中、
「軽井沢の自然に息づく
　草花の永遠の命を残す」
をテーマに草花画の制作を続けた。
2007年7月永眠(満70才)